



ことばの力

教育長 津野庄一郎

「ご入学おめでとうございます。学ぶということは、ことばの力を磨くこと、ことばで大切なことを共有し、ことばで世界を解き明かそう」これはこの春、関川中学校入学式に寄せられた関川小学校旧職員からの祝電の一節です。

4月のある新聞は「暴れる子ども 苦悩する現場」と題し、2023年度調査において小学校で確認された児童の暴力行為が約7万件だったと報じていました。背景には「気持ちを言葉でうまく伝えられない傾向がある」ことや、近年のタブレット端末の使用による児童同士の会話、教師の働き掛け不足があると述べ、「子どもに言葉で伝える力を身につけさせ、大人は子どもの思いを分かる努力をしなくてはいけない」と警鐘を鳴らしています。

関川村教育ビジョンの学校教育の柱の一つは、「授業改革の推進」です。子どもたちが学校で一番多く過ごすのは、一コマ一コマの授業で、そこでの学びから得る「できた」「わかった」「伝わった」「認められた」という実感が、学校を楽しみと思う要因であり、それが学び続ける子どものエネルギーだと考えるからです。そのため教師には、子どもたちの積極的なコミュニケーションを通じて、自分のことばで思いや考えを伝えられるよう、発達段階に応じた働き掛けと適切な指導・支援が求められます。村の教職員はこのことを踏まえ、保・小・中学校が協働して教育に当ります。

「学ぶということは、ことばの力を磨くこと」、それは村の未来を切り拓く子どもの生きる力を育てることでもあると思うこの頃です。今日も子どもたちの明るいあいさつの声が聞こえてきます。

<【写真】4月9日 関川小学校 玄関前での小中合同あいさつ運動>